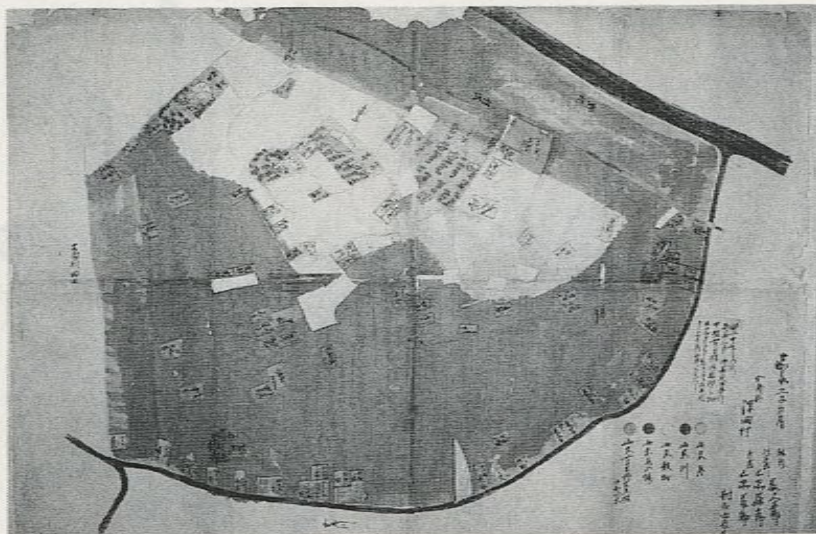


## 川とともに生きる (5)

眼前を滔々とうとうと流れる木曾川：  
……。人々はこの大河からさまざまな自然の恵みを受けて生活の糧を得、また内陸交通に利用してきました。

しかし、一方でひとたび大雨が降れば川はその様相を変え、洪水となって流域に大被害をもたらしました。特に防災施設の整っていなかった江戸時代以前はその被害は極めて大きなものとなりました。

左の写真は、最近見つかった深田町における江戸時代（嘉永五年、一八五二）の浸水被害図



です。名が示す通り深田地区は海拔が低いこともあり過去に頻繁に被害を受け、この時も地区の大半が青色に塗られています。貞享四年（一六九八）から昭和四三年（一九六八）までの約二八〇年間で人命損失、家屋流失を伴う大水害の被害を三七回も受けました（『美濃加茂市史』通史編より）。

また水害が襲った年は、天候が不順な年が多く、農作物は不作でした。床上六尺という大被害を受けた天明六年（一七八六）の翌年から歴史上有名な天明の大飢饉が始まることとなります。あのいまわしい九・二八災害からまもなく八年が経とうとしています。

今回、次の方々から貴重な資料を市教育委員会に寄贈いただきました。ありがとうございます。  
（平成三年七月分）

●郷土関係図書、古書 三五冊

（後藤恒雄さん／可児郡兼山町）

●まゆ用さおばかり

（板津金次さん／本郷町）

近い将来の博物館建設に向けて情報や資料を集めていますので、市社会教育課（内線三六一）までご連絡ください。